

農事組合法人 広瀬台営農組合（杵築市下本庄）

【経営の概要】

経営形態	生産組織（特定農業法人）
モデルの種類	中山間地モデル
設立時期	（総会）平成10年12月16日（登記）平成11年1月26日
構成戸数	86戸
労働力	基幹15名、補助25名

【経営規模(ha)】

	経営面積	水 稲	麦 類	その他 (飼料作物)	作業受託 (経営に含む)
			小麦		
平成19年	29.4	17.7	29.4	10.7	
平成20年	29.4	18.0	29.4	11.8	
平成21年	29.9	19.9	29.9	10.0	

【機械装備】

トラクター	4台	乗用管理機（ブームスプレーヤー）	2台
コンバイン 6条刈	2台	フレコンシステム	1基
田植機	2台	その他アタッチメントなど	
ショットガン播種機	1台		
ライスセンター	1棟		

【経営の特徴】

県下でも例を見ない1区画1～2haの大型圃場での土地利用型作物の大型機械一環体系での経営を行っている。コスト低減のため、作業の効率化を追求しており、水稻の点播直播栽培や飼料米栽培にも積極的に取り組み、新規技術の導入にも意欲的な組織である。

転作作物は全面積を飼料用米にしている。また、月3回の役員会で意志決定と作業計画を早めに話し合い作業を計画的に行っている。

【導入した新技術】

◎湛水土中点播技術（ショットガン）

（手法）ショットガン播種機を使用し、水稻直播を実施した。

（結果）育苗・移植に係わるコスト、労働時間、移植に係わる労力が低下し、大規模経営での導入について効果的であった。

初年度は試験的に1.4ha水稻（ヒノヒカリ）で水稻直播を県下の実演会と合わせて行った。雑草対策など課題は残ったが、2年目にはショットガン播種機を購入し、飼料米で6.8ha実施した3年目となる本年度には、転作面積の全て（9.5ha）で直播きを実施し、飼料米生産のコスト低減に役だった。



育苗労働時間比較（10a当たり）

項 目	導入前	導入後
労働時間(hr)	2.25	0.23

9.5haでは人件費が約19万円削減できる。

（留意点）

播種前の代掻きの堅さ調整が必要である。また、均平が十分でないと発芽不良となるので注意が必要である。直播の大敵であるスクミリングガイの対応も発生地域では必須である。

◎土壌分析に基づく土作り資材の投入

(手法) 耕起前に土壌採種し、土壌分析を行った。

(結果) pH、ECとも標準施肥が必要な数字であった。

堆肥 1 t、ミネラルG200kgをそれぞれの圃場に投入している。

(留意点) pHが高い場合は、土壌改良材の量を調整する必要がある。



圃場番号等		pH	EC
19年	10号	6.2	0.03
20年	19号	6.0	0.05
	23号	6.2	0.04
	26-1号	6.5	0.06
21年	7号	6.16	0.02
	10号	6.19	0.06
	11号	6.18	0.09

◎簡易培土板利用による播種同時溝上げ技術

(手法) 簡易培土板をトラクターに取り付け、播種時に簡易な溝上げを行う。

(結果) 小麦の全面積で毎年実施しており出芽の向上に役立っている。

(留意点) 圃場の乾燥を確認の上作業に入ること。



◎自脱型コンバインによる収穫

(手法) 自脱型コンバイン (6条刈り) を使用し、水稻、麦、飼料米を収穫した。

(結果) 水稻約 20ha、麦約 30ha、飼料米約 10haで利用した。2台の大型コンバインで効率的に収穫ができています。



◎その他特徴的な取組

他の地区とは違い、旧杵築市では大豆を作付けする集団は少ない。

広瀬台では、平成21年度から表作は飼料米を含み全てが水稻、裏作は全面積で麦の組み合わせにしている。

◎主な波及活動

- ・平成19年度は、水稻直播の研修会を(農)広瀬台営農組合で全県を対象に行った。
- ・平成20年度、21年度は飼料米の研修会及び直播の研修会を同様に実施し、成果の発表を行っている。
- ・当組合は、大規模圃場での大型機械一環体系を行ってることから注目され、県内や県外からの視察の受け入れを数多く行っている。本年は、大分県担い手育成総合支援協議会や大分県農業委員会長会などの視察も受け入れた。

【経営状況】

(10aあたり)

	労働時間(県平均比)	全算入生産費(県平均比)	所得
経営全体	8.4hr (40%)	65,033円 (68%)	6万円
水稻	9.7hr (46%)	84,555円 (54%)	
麦	5.3hr (38%)	53,121円 (102%)	
飼料米	8.8hr (—)	58,915円 (—)	